車いす/ CRTシリーズ

自走型 CRT-1-CZ / CRT-3-CZ 介助型 CRT-2-CZ / CRT-4-CZ

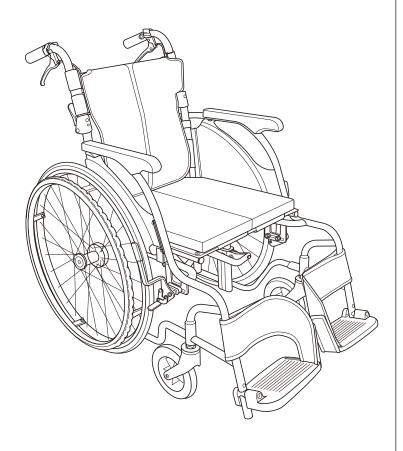
取扱説明書

◇◇◇◇ より快適に車いすをお使いいただくために ≪≪≪≪

はじめに -

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、 誠にありがとうございます。

で使用前に本書を必ずお読みになり、 十分に理解をした上でお使いください。 本書はいつでもご覧になれる所に大切に 保管しておいてください。使用者の身体 の状態・環境の変化に合わせて、必要な ときに本書をお読みください。



※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた 製品と異なる場合があります。

目 次

使用目的・特徴2
はじめにご確認ください2
安全上のご注意2
各部のなまえ6
使いかた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
各部の調節のしかた13座幅の調節13座シートの張り具合調節14バックサポートの張り具合調節14フットサポートの高さ調節15
使用上のご注意 ······ 16 困った時には ····· 18
仕様 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

本書は、CRTシリーズ (CRT-1/2/3/4-CZ) 共通の取扱説明書になります。 本書では、機種ごとに装備が異なる項目には、該当機種を記載しております。 該当機種を確認いただき、ご自分の車いすに関係する項目をお読みください。

使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗して移動と、休息を目的としています。

CRT-1-CZ/CRT-3-CZの場合 —

特殊な身体保持具、バックサポート(背)・座位の角度調整機構等がなく、使用者がハンドリムを操作して駆動する 手動式の自走用標準型車いすです。

日常生活用に設計されており、特殊な使用目的(スポーツ・入浴など)のものではありません。

CRT-2-CZ/CRT-4-CZの場合 ———

特殊な身体保持具、バックサポート(背)・座位の角度調整機構等がなく、介助者が操作する介助用標準型車いすです。 日常生活用に設計されており、特殊な使用目的(スポーツ・入浴など)のものではありません。

はじめにご確認ください。

本製品ご購入後に、はじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべてはいっていることを確認してください。

- ●車いす本体
- 取扱説明書
- 工具(スパナ 2ケ 六角レンチ 5mm・4mm・3mm 各1ケ)

- 保証書
- 背アウターシート座クッションレッグサポート

安全上のご注意

で使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる 人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明して います。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じる ことが予想される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示して

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定 される内容を示しています。

【記号の意味】

警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

危険

スピードを出さないでください。

スピードが出ているときに 急カーブを走行したり、 急ブレーキをかけたりすると、 転倒して事故やけがに つながる恐れがあります。



急な下り坂で介助するときは、後ろ向きに ゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキ レバーを使いスピードを落としてください。

座幅調整の際、エックススライドブロックは 必ず左右同じ設定位置に調節してください。 左右の高さが異なると、腰掛けた場合に転倒 して、事故やけがにつながる恐れがあります。

● 自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。

 \sum_{τ}

乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。

駆動輪(主輪)が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。

坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

エスカレーター(車いす対応エスカレーター除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)でのご使用は絶対に行わないでください。 転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。

⚠警告

乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の 駐車用ブレーキをかけてください。

ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

駐車用ブレーキレバーに体重をかけないで ください。

> レバーやフレームが破損・変形し、転倒する 恐れがあります。



駐車用ブレーキのレバー

全行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。

転倒などの事故につながる恐れがあります。

座幅の調節は、販売店へご依頼ください。

各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。

車いすが動きだし、事故やけがにつながる 恐れがあります。

使用する前に、両側の背折れジョイントが 確実にロックされていることを確認してくだ さい。

ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が 当たらないよう注意してください。 けがをする恐れがあります。

手押しハンドル、本体フレームおよびバック サポートのポケットに重いものを吊り下げ たり、入れたりしないでください。

過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

前かがみの状態など、車いす前方向へのみ 体重をかけるような状況は、座面後方が浮き 上がり前方に転倒する恐れがあります。

⚠警告

制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。

片側のみかけると、車いすが転倒して事故や けがにつながる恐れがあります。

ウイングアームサポートを跳ね上げた状態で 走行しないでください。

> 使用者が車いすから落ちて、事故やけがに つながる恐れがあります。

フット・レッグサポートを開いた状態で走行 しないでください。

事故やけがにつながる恐れがあります。

ウイングアームサポートを戻した後は、必ず ロックされたことを確認してください。 使用中に外れると、事故やけがにつながる恐 れがあります。

フット・レッグサポートの開閉時およびウイングアームサポートの跳ね上げ時は、フック部や可動部に身体や衣服を引っ掛けたりはさんだりしないように注意してください。 けがをする恐れがあります。 車いすの分解、フレーム構造を変更する ような改造は行わないでください。 製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など

事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポート、アームサポートフレーム、 フット・レッグサポートを持って車いすを 持ち上げないでください。

> アームサポートやフット・レッグサポートの ロックが外れ、けがをする恐れがあります。

- クッションフロアやフローリングなど床面の 材質によっては、ハイポリマータイヤとの 相性により車いすを走行させると汚れが付着 したり、床面を傷つける場合があります。 充分注意してご利用ください。
- 乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服 を引っ掛けないように注意してください。 転倒など事故やけがにつながる恐れがあり ます。
- フット・レッグサポートを閉じた後は、必ず フックで固定されたことを確認してください。 事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠注意



最大体重 (積載物含む) は 100kgです。 体重制限を守って使用してください。

使用者が乗車中は、背折れジョイントの操作 は絶対に行わないでください。

> 背折れジョイントのヒンジ部分で手や腕を はさむ恐れがあります。

背折れジョイント、跳ね上げ式アームサポート、 フット・レッグサポートなどの可動部に指や 身体をはさまないよう注意してください。

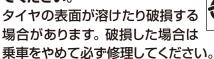
走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。 事故やけがにつながる恐れがあります。

車いすをたたむときや、折りたたんだ車いすを開くときは、シートパイプを握らないでください。 手をはさみ危険です。



走行中、身体を乗り出さないでください。 走行の安全を損ない危険です。

暖房器具にタイヤを近づけないでください。





操作中に異常な音や振動が発生したら、即時 に使用を中止してください。

事故やけがにつながる恐れがあります。

使用する前に駆動輪(主輪)・キャスタ・駐車 用ブレーキ、各調節部等のネジを点検し、緩ん でいるときは増し締めをしてください。

ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。

- 車いすを自動車に載せる際および自動車から 降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えない よう、ゆっくりと静かに降ろしてください。 車いすの破損や故障の原因となります。
- フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。 けがをする恐れがあります。
- フットサポートの下には足を入れないでください。 定を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れが

あります。

- 車輪を他のサイズや種類に変更しないでください。
- アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。アームサポートが身体、衣服に引っ掛かり、けがをする恐れがあります。
- フット・レッグサポートを開いて使用する際は、フット・レッグサポートを取り外してください。フット・レッグサポートを取り外さず開いたまま使用すると、駐車用ブレーキや障害物との接触などにより、故障やけがにつながる恐れがあります。

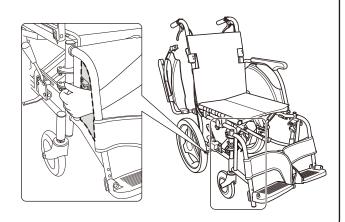
使用者の体格や座位姿勢によってサイドガードが外側にひろがった状態で使用しないでください。車いすの破損や故障の原因となります。



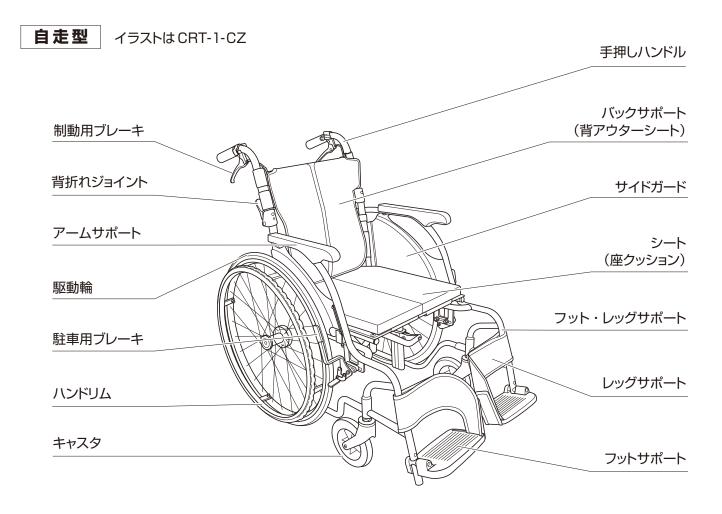
段差のあるところを上り下りするときは、 車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり 操作してください。

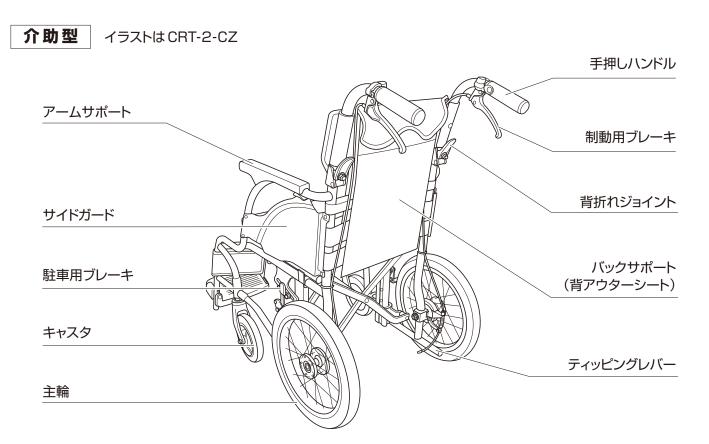
車いすの破損や故障の原因となります。

- 段差乗り越え時等でキャスタを上げる際は 必ず手押しハンドルを手前に引くと同時に 足元のティッピングレバーを押し出して下さい。 手押しハンドルのみに無理な力がかかると フレームの破損につながります。
- シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しない でください。 製品を傷める恐れがあります。
- フット・レッグサポートのすき間に手や足を 入れないでください。 けがをする恐れがあります。



各部のなまえ





ブレーキのかけかた

・乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。 ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。 駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

・駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。

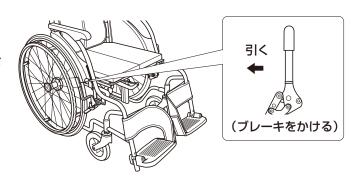
҈А警告

- ・車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用 ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・タイヤの摩耗や劣化に注意してください。 タイヤが摩耗や劣化すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が 悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた –

使用者もしくは介助者が、左右の駐車用ブレーキレバーを 手前に引いてかけます。

駐車用ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



● 制動用ブレーキのかけかた

・スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキを かけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠危険

- ・急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。 また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。
- ・雨の日などの路面、タイヤが濡れている状態では、本来の制動力を得られないことがあります。 充分に注意したうえで操作してください。

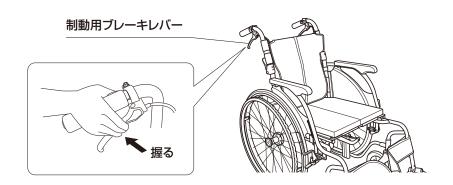
҈≜告

制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。 片側のみかけると、車いすが転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

∧注意

ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。(交換の目安:1年に1度)

介助者が、左右の手押しハンドル下側の 制動用ブレーキレバーを握ってかけます。 ブレーキレバーを放すと解除されます。



車いすの開きかた/たたみかた

- ・シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。
- ・必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。
- ・背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。

⚠注意

- ・背折れジョイントを上げる際は、開口部にシートを巻き込まないよう注意してください。ジョイント が完全にロックされない恐れがあります。また、シートの破損につながる恐れがあります。
- ・後方へ進行や旋回をするときに、背折れジョイントが障害物に当たらないよう注意してください。 背折れジョイントのロックが外れて後方で姿勢をくずす恐れがあります。

● 開きかた

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 手押しハンドルを両側とも上げます。
 - * 背折れジョイントが完全にロックされるまで 上げてください。
 - *このとき、背折れジョイントの開口部に手や 指を近づけないでください。手や指をはさん でけがをする恐れがあります。



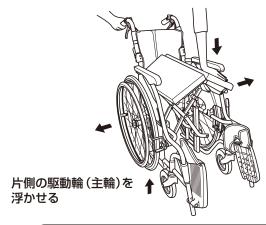
手押しハンドルを 両側とも上げる



手をはさむ おそれあり

3 片側の駆動輪(主輪)を少し浮かせて、その状態 を保ちます。 **4** 駆動輪(主輪)を浮かせていない側の座シートの表面を、手の平で押して開きます。

*シートパイプを握らないでください。

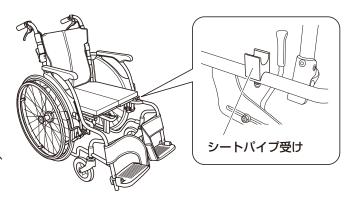




シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりと はまっていることを確認してください。

*しっかりはまっていない場合は、シートパイプ の中央付近を押してはめてください。押す時は、 シートパイプの先端を押さないでください。 フレームが変形する恐れがあります。

シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。



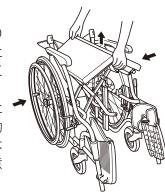
● たたみかた

- **1** 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 図のように、手押しハンドルを両側とも下げます。



- **3** フットサポートを両側とも上げます。
- **4** 座シートの前後を持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。

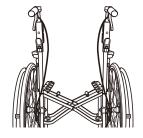
- 5 左右のアームサポートを外側から内側に押し、 座シートを折りたたみます。
 - * 背アウターシート、 座クッションを取り 外して折りたたむと より小さくたたむこ とができます。
 - *車いすをたたむと きは各部品が可動 しますので、手をは さまないように注意 してください。



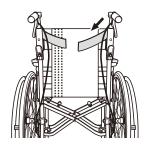
インナーシートの取り付け/取り外し

∧注意

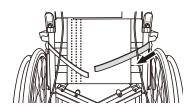
- ・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・使用者が乗車していない状態で作業してください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- バックインナーサポートの取り付けかた(出荷時は取り付けられた状態となっております。)
- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 車いすのフレームを軽く開いた状態にします。



3 背シート上部のベルト (2本)を押手パイプの リングに通し折り返します。



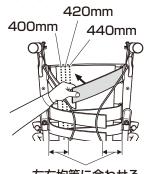
4 背シート中央部のベルト(1本)をアームパイプと サイドガードの間に巻きつけます。



5 背シート下部のベルト (2本)を背パイプに巻き つけます。



- **6** 車いすのシート幅に対応した目印まで右側のベルト先端を左側へ引っ張ります。
 - * 背シートの赤いラインはベルトの調整の基準線です。ベルトを張る場合は右側のベルト先端が車いすのシート幅の赤いラインを超えないようにしてください。

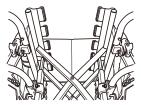


左右均等に合わせる

7 左側のベルトを同じ長さだけ右側へ引っ張り、 シート本体とベルトの面ファスナーをしっかり貼り 合わせます。

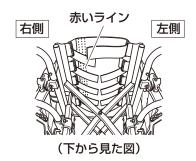
● 座インナーシートの取り付けかた(出荷時は取り付けられた状態となっております。) —

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 車いすのフレームを軽く開いた状態にします。



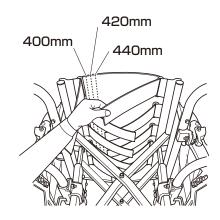
(下から見た図)

- **3** 座シートのベルト(左右各5本)をシートパイプの リングに通し折り返します。
 - * 赤いラインの側を車いすに対して右側に取り付けてください。



4 車いすのシート幅に対応した目印まで左側のシートを右側へ引っ張ります。

*座シートの赤いラインはベルト調整の基準線です。ベルトを張る場合は左側のベルト先端が車 いすのシート幅の赤いラインを超えないように してください。



5 左側のベルトを同じ長さだけ左側へ引っ張り、 シート本体とベルトの面ファスナーをしっかり貼り 合わせます。

取り外しかた —

取り外しは逆の手順になります。

アウターシートの取り付け/取り外し

● 背アウターシートの取り付けかた -

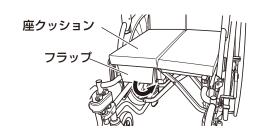
- **1** 背アウターシートのポケット部を後ろにし、折り目部分が上に くるように車いす本体にあわせます。
- 2 背アウターシートと背インナーシートの面ファスナーを貼り 合わせます。

*ブレーキワイヤーは背アウターシートの中に入れてください。



● 座クッションの取り付けかた

- **1** 座クッションのフラップを前側にし、車いす本体の座インナーシート表面の面ファスナーと貼り合わせます。
- 2 フラップを折り返し、座インナーシート裏面の面ファスナーと 貼り合わせます。

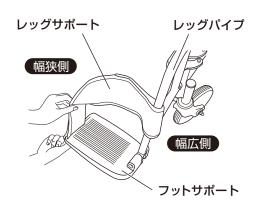


● 取り外しかた -

取り外しは逆の手順になります。

● レッグサポートの取り付けかた -

- **1** 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレッグパイプに 巻きつけ、面ファスナーを貼り合わせます。
- **3** レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後 どちらかの穴に差し込みます。
- 4 穴に通したレッグサポートの端を折り返して面ファスナーを 貼り合わせます。
- 5 反対側も同様の作業を行います。



乗り降りのしかた

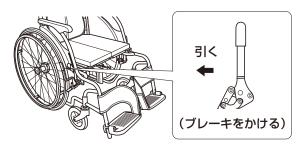
・乗り降り時は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。 車いすが動きだし大変危険です。

≜警告

- ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。 転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。 けがをする恐れがあります。

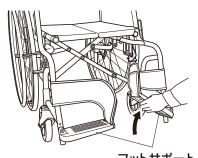
● 乗りかた —

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。



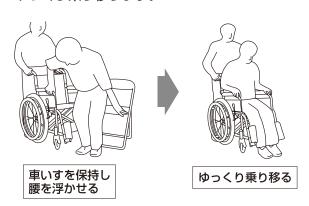
- **2** フットサポートを両側とも上げます。
 - *フットサポートの上には乗らないでください。 転倒し、けがをする恐れがあります。
 - *上げたフットサポートに足が当たらないよう 注意してください。

けがをする恐れがあります。

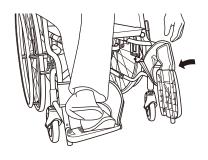


フットサポート

3 車いすをしっかりと保持しながら、 ゆっくり乗り移ります。



4 フットサポートを下ろして両足を乗せます。



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

アームサポートの跳ね上げ

CRT-3-CZ/4-CZの場合

アームサポートをワンタッチで後方へ跳ね上げることができます。ベッドと車いすの間の移乗などがスムーズに行えます。

- ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。 部品が外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠注意

・アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認 してから行ってください。

アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

● 跳ね上げかた -

ロックレバーを押しながら、アームサポートフレームを後方へ 跳ね上げます。

*アームサポートフレームを上げた状態で、 アームサポートフレームに力を加えないでください。 フレームが変形し故障の原因となります。

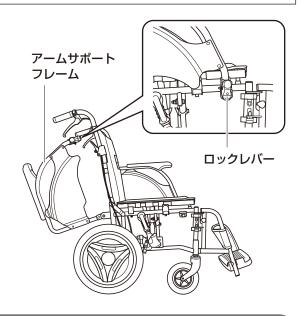
● 戻しかた -

⚠注意

アームサポートを下ろすときは、身体や衣服を 挟み込まないよう注意してください。

アームサポートフレームを下ろし、完全にロックされたことを 確認します。

*アームサポートフレームを下ろした後、アームサポートフレーム が完全にロックされていることを確認してください。



フット・レッグサポートの開閉・取り外し

CRT-3-CZ/4-CZの場合

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

- ・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから 行ってください。
- ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。 ロックが外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。

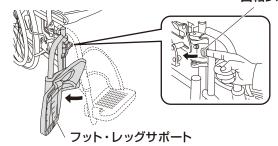
⚠警告

- ・開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。 けがをする恐れがあります。
- ・乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。 転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

● 開きかた -

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグ サポートを外側に回転させて開きます。

回転レバー



● 閉じかた —

⚠注意

フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

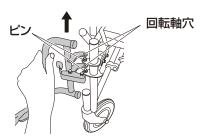
フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。 閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされた ことを確認します。

● 取り外しかた ——

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

1 車体フレーム側の回転軸穴にフット・レッグサポート側のピンを合わせて垂直に上からはめ込みます。



- 2 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。 閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロック されたことを確認します。
 - *フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。
- *フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグ サポートに力を加えないでください。金具が変形し 故障の原因となります。

各部の調節のしかた

⚠警告

- ・各部の調節は必ず駐車ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。
- ・座幅の調節は、販売店へご依頼ください。

座幅の調節

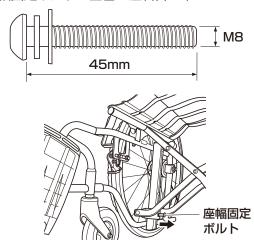
⚠危険

- ・座幅調整の際、エックスベースブロックは必ず左右同じ設定位置に調節してください。 左右の高さが異なると、腰掛けた場合に転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・調整作業で各部をスライドさせる際には、指を挟まないよう十分注意してください。

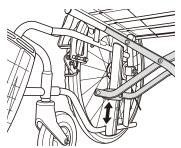
座幅はS、M、Lの3段階(20mmピッチ)に調節することができます。 座幅調節はセンタースライドパイプのエックスベースブロック(黒色)の位置とバックサポート、座シートの調節によって行います。

- **1** 座幅を広げる場合は、はじめにバックインナー サポート、座インナーシートのベルトを緩めます。
 - *エックスベースブロックの位置は左右同じに 調節してください。
 - *車いすを少したたんだ状態で作業を行ってく ださい。
- **2** エックスベースブロック(黒色)の座幅固定ボルトを取り外します。

座幅固定ボルト 金色 左右各1本

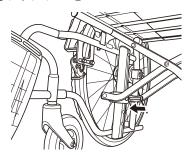


*上図に示されたボルトの色・ネジ径・長さを 必ず確認してください。 3 エックスベースブロック(黒色)を上下にスライド させ、スライドパイプに表記されている座幅位 置に合わせます。



4 座幅固定ボルトを取り付け、しっかりと締め きり固定します。

締め付けトルク; ③11.0~12.0N·m

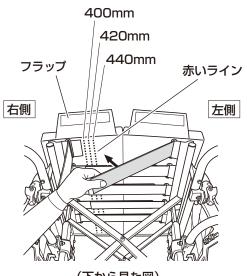


5 バックインナーサポート、座インナーシートの 張り具合を調節します。(P.14参照)

座シートの張り具合調節

面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。 ⚠注意

- *シート幅を調節したときは、シート幅に合わせて適切な張り具合になるように座シートを調節してください。
- *座シートの張り具合は随時チェックし、必要に応じて調節してください。
- *座シートを張りすぎるとエックスフレームが浮いて座受けに乗らない状態になります。
- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- **2** 座クッション前部のフラップをはがします。
- 3 ベルトの面ファスナーをはがし、車いすのシート幅に対応した目印まで 左側のシートを右側へ引っ張ります。
 - *座シートの赤いラインはベルト調整の基準線です。 ベルトを張る場合は左側のベルト先端が車いすのシート幅の赤い ラインを超えないようにしてください。
- **4** 左側のベルトを同じ長さだけ左側へ引っ張り、シート本体とベルトの 面ファスナーをしっかり貼り合わせます。
- **5** 前部フラップを折り返し面ファスナーを貼り合わせます。
- **6** 座面に力を加え、しっかり固定されていることを確認します。

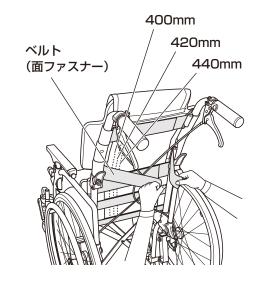


(下から見た図)

バックサポートの張り具合調節

⚠注意 面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

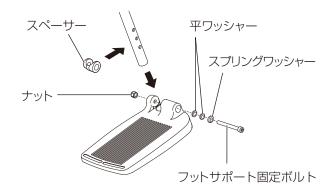
- *バックサポートの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。
- *バックサポートを張りすぎると車いすが完全に開かない状態になります。
- *シート幅を調節したときは、シート幅に合わせて適切な張り具合になるようにバックサポートも調節してください。
- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 背アウターシート後面、ポケット部をめくり上げます。
- 3 ベルトの面ファスナーをはがし、車いすのシート幅に対応した目印まで 右側のシート先端を左側へ引っ張ります。
 - * 背シートの赤いラインはベルト調整の基準線です。 ベルトを張る場合は右側のベルト先端が車いすのシート幅の赤い ラインを超えないようにしてください。
- **4** 左側のベルトを同じ長さだけ右側へ引っ張り、シート本体とベルトの 面ファスナーをしっかり貼り合わせます。
- 5 ポケット部を折り返し、ベルトの面ファスナーと貼り合わせます。
- がックサポートに力を加え、しっかり固定されていることを確認します。



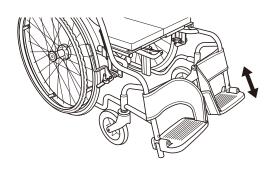
フットサポートの高さ調節

フットサポートは20mm 間隔で3段階の高さに調節することができます。

- **1** 駐車用ブレーキレバーを引いて、 両輪のブレーキをかけます。
- **2** フットサポートを下ろした状態で、 フットサポート固定ボルトを外します。



3 脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節 します。



- **4** 希望の高さの穴を決めたら、固定ボルトを差し込み、 ナットと共に締め付けて固定します。
- *反対側も同様に調節してください。

フットサポート調節のコツ

取り外すとき ―

1 六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。 反対側からナットが飛び出してきたら、ナットを指で押さえておきます。



ボルトがナット側に突き出ているときは、ナットを指で押さえているとけがをする恐れがありますのでご注意ください。



2 フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナットを取り外します。

使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠警告

キャスタの旋回軸やキャスタ・駆動輪 (主輪)・ブレーキ・各調節部等は定期的に点検してください。 ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



- ・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の 当たる場所には放置しないでください。
- ・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。 (地上より50mm 以上あげてください。)

● 消耗品、交換部品の確認

▲ 注意 │ 交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

- ・それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。 新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。
- ・ハイポリマータイヤは、表面に溝がない状態やひび割れがみられる状態で使用を続けますと、タイヤ内部に水分が 浸食して加水分解を起こし、タイヤの劣化が早まります。お早めに交換してください。

消耗品・交換部品

品名	交 換 時 期
駆動輪(主輪)	タイヤの表面に溝がなくなったとき。タイヤにひび割れなどが見られる場合。
キャスタ	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた 布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・水などがかかった場合は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、 その後乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。

⚠注意

製品を傷める恐れがあります。

・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。

● タイヤのお手入れ

・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● 保管・収納について

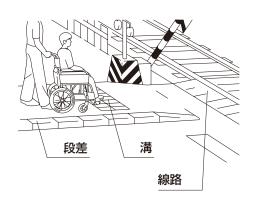
- ・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・錆やタイヤのパンク、劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所、直射日光のあたる場所には 保管しないでください。

⚠注意

折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。 破損する恐れがあります。

走行上のご注意

- ・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャスタのはさみ込みには充分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。
- ・クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。充分注意してご利用ください。
- ・エスカレーター (車いす対応エスカレーターは除く)や、傾斜のある動く 歩道 (オートスロープ) での使用は、絶対に行わないでください。
- ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。



段の上がりかた

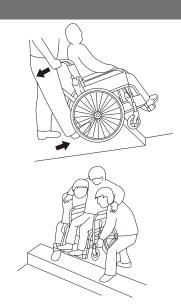
- **1** 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャスタを段の上にあげます。
- **2** 駆動輪 (主輪)を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。
 - *無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

⚠警告

持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。 アームサポート、アームサポートフレーム、背折れジョイント、 フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないで ください。

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかりと持ち上げるようにしてください。



段の下りかた

手押しハンドルとティッピング部分で車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。

- *無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。
- *段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。 車いすの破損や故障の原因となります。

困った時には・

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡するまえに下記項目を確認してください。

症状	確認点	対 処	
車いすがまっすぐ 走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。 車いすは、傾斜面では低い方へ キャスタが流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。	
	キャスタの回転に左右差がありませんか。 キャスタ軸の回転がスムーズですか。 キャスタ・駆動輪 (主輪) の計4輪が きちんと接地していますか。	- お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。	
駐車用ブレーキが 効かない。	駆動輪 (主輪) のタイヤは摩耗していませんか。 駐車用ブレーキのタイヤ押えが駆動輪 (主輪) にきちんと当たっていますか。 駐車用ブレーキがガタついていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。	
制動用ブレーキが 効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、 引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、 ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。 改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ 修理をご依頼ください。	
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。	
異音がする。	本体や駆動輪 (主輪) とオプション品、 アクセサリーなどとの干渉はしていま せんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは駆動輪 (主輪)など回転する箇所と干渉しないようにして ご使用ください。	
	可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油きれ などによっておこる摩耗音がしていま せんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。	
	ボルト類の緩み等がおきていませんか。 フレームに歪みが発生していませんか。		
車いすが開かない。	バックサポートの張り具合を締めすぎて いませんか。	バックサポートの張り具合を調整してください。	

仕 様

	機種名			
	CRT-1-CZ	CRT-2-CZ	CRT-3-CZ	CRT-4-CZ
フレーム材料	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
シート材料	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC	ポリエステル PVC
アームサポートタイプ	固定式	固定式	開閉式(ウイング)	開閉式(ウイング)
アームサポート	ウレタン	ウレタン	ウレタン	ウレタン
サイドガード	ポリプロピレン	ポリプロピレン	ポリプロピレン	ポリプロピレン
グリップ	PVC	PVC	PVC	PVC
バックサポート	テンション調整	テンション調整	テンション調整	テンション調整
背折れ	あり レバー式	あり レバー式	あり レバー式	あり レバー式
フット・レッグサポート タイプ	固定式	固定式	開閉式(スイングアウト)	開閉式(スイングアウト)
フットサポート	軽量	軽量	軽量	軽量
キャスタ	6"ソフトフォーミング	6"ソフトフォーミング	6"ソフトフォーミング	6"ソフトフォーミング
タイヤ	ハイポリマータイヤ(黒)	ハイポリマータイヤ(黒)	ハイポリマータイヤ(黒)	ハイポリマータイヤ(黒)
制動用ブレーキ	あり サーボブレーキ	あり サーボブレーキ	あり サーボブレーキ	あり サーボブレーキ
ハンドリム	プラハンドリム	なし	プラハンドリム	なし
駐車用ブレーキ	SKブレーキ	SKブレーキ	SKブレーキ	SKブレーキ

単位mm

测学话口	機種名			<u>≠□□□□□</u>
測定項目	CRT-1-CZ	CRT-2-CZ	CRT-3-CZ	CRT-4-CZ
駆動輪(主輪) (inch)	22細PU(黒)	14PU(黒)	22細PU(黒)	14PU(黒)
キャスタ径 (inch)	6	6	6	6
前座高 ※1	430 (400)	430 (400)	430 (400)	430 (400)
後座高 ※1	405 (375)	405 (375)	405 (375)	405 (375)
シート奥行	380	380	380	380
シート幅 ※2	400/420/440 (360/380/400)	400/420/440 (360/380/400)	400/420/440 (360/380/400)	400/420/440 (360/380/400)
バックサポート高 ※1	390(420)	390(420)	390 (420)	390 (420)
フットサポート・シート間距離 *1	330/350/370 (300/320/340)	330/350/370 (300/320/340)	330/350/370 (300/320/340)	330/350/370 (300/320/340)
アームサポート高 ※1	215 (245)	215 (245)	215 (245)	215 (245)
全高	845	845	845	845
全幅	550/570/590	490/510/530	550/570/590	490/510/530
全長	960	960	960	960
折りたたみ全高	670	670	670	670
折りたたみ全幅 ※3	320	250	320	250
折りたたみ全長 ※4	920	840	720 (920)	600 (820)
重量 (kg) ※5	11.1	9.9	12.9	11.2

- ※1 ()内は座クッションを外したときのサイズです。
- ※2 アームパイプ内々の幅です。()内は座シートの幅です。
- ※3 折りたたみ寸法の全幅については、背アウターシート、座クッションをを外したときのサイズです。
- ※4 ()内はフット・レッグサポートを取り付けたときのサイズです。
- ※5 座クッションを外したときの重量です。

静的安定性試験方法(弊社ではJIS T9201 10.1.2a方式にて試験を行っています。) キャスタが交換可能な場合、推奨するキャスタ径は上記キャスタ径になります。

アフターサービス

- ・万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をご連絡ください。
- ・保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保 証

- ・保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- ・保証期間終了後の修理については、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。 修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

本製品の廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元



〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号